

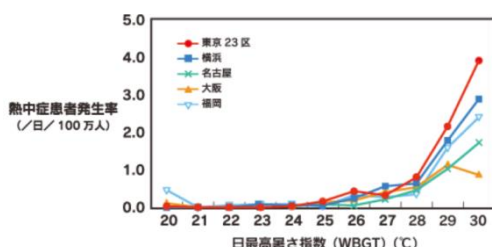
熱中症に関わる対応について

R3.6 若園小学校

○ 暑さ指数 (WBGT) について

気温	暑さ指数	熱中症予防運動指針	
35°C以上	31以上	危険 (運動は原則中止)	特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合には中止すべき。
31~35°C	28~31	嚴重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高い、激しい運動や持久走などは避ける。 10~20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。 暑さに弱い人※は運動を軽減または中止。
28~31°C	25~28	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり、適宜、水分・塩分を補給する。 激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
24~28°C	21~25	注意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
24°C未満	21未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

**外での
活動禁止**



暑さ指数 (WBGT) が 28 (嚴重警戒) を超えると熱中症患者が著しく増加する様子が分かります。
(平成17年の主要都市の救急搬送データ)

○ 暑さ指数 (WBGT) に関わる対応

暑さ指数を教室の前後、職員室大型テレビに提示する。担任は、当日の暑さ指数を把握し、熱中症予防に努める。

暑さ指数が、「危険」及び「嚴重警戒」のときは、**外での活動は禁止**。
昼休みの外遊び及び午後の体育ができないときは、放送でも伝える。

○ 体育の授業中の留意点 (感染症対策も含む)

- 暑さ指数が、「危険」及び「嚴重警戒」のときは、**外での活動は禁止**。
- 体育館での活動の際は、**ドアと窓をすべて開け**、風通しをよくする。また、**ステージ上の大型ファンを常時つけておく**。
- 水筒を持参し、活動中に**2回以上水分をとる**。
- 給水は一斉に行い**、水分をとっていない児童がいないようにする。
- 「めあてを作る」「運動のポイントを確かめる」等、**話をしたり聞いたりする際は、日陰で行う**。
- 赤白帽子を必ず着用**する。
- 準備運動及び活動中は、適切な距離を保ち、**マスクを外す**。
- 活動中は、**不用意に声を出さない**ように指導する。授業者は、ハンドホイッスル、リズムたいこなどを活用し、大きな声を出さないよう工夫する。
- できる限り、**個人での活動**を行う。
- パスやシュートなど、ボールの交換を行う運動は、4人以下で行う。また、その時間内は、**ペアやグループの組み合わせを変えない**。
- 活動の前後に、**手洗いと手指の消毒**を行う。

【見学児童について】

- 見学児童は日陰で見学**させ、他の児童と**同じタイミングで給水**させる。
- 見学児童が**複数いるときは、2m以上の間隔**を取って、見学させる。